

開催日 平成24年1月19日	会議時間	開会 14:00 閉会 16:00
会議場所 ようてい農協ニセコ支所 会議室	記録者 (株)建設技術研究所 松田光弘	
<p>出席者（敬称略・委員は50音順）：</p> <p>委員長 媚山 政良（室蘭工業大学大学院 工学研究科 機械創造工学系専攻 教授）</p> <p>副委員長 鈴木 亨（NPO 法人北海道グリーンファンド 理事長）</p> <p>委員 梅本 京子（ニセコ自然エネルギー研究会）</p> <p>大田 和広（農業者）</p> <p>大野 幸一（ようてい農協ニセコ支所長）</p> <p>中村 和美（公募委員）</p> <p>牧野 雅之（建設業協会会長）</p> <p>吉川 洋子（ニセコ自然エネルギー研究会）</p> <p>吉原 京子（農業者）</p> <p>吉村 伸朗（ニセコ町役場農政課長）</p> <p>事務局</p> <p>茶谷 久登（ニセコ町 企画環境課長）</p> <p>樋口 範幸（ニセコ町 企画環境課環境エネルギー係長）</p> <p>竹内 聖（ニセコ町 企画環境課環境エネルギー係 主任）</p> <p>松田 光弘（(株)建設技術研究所 地球環境センター長）</p>		
<p>欠席者</p> <p>伊藤保委員</p>		

会議次第

- 1 開会
- 2 あいさつ
- 3 議事
 - (1)再生可能エネルギー事業化検討の結果について
事業モデルと採算性、今後の課題等
 - (2)事業の具体化に向けて
資金循環の仕組み
体制構築、組織化、人材育成等について
- 4 その他
- 5 閉会

配付資料

- 議事次第
資料1
資料編

会議内容

(1) 再生可能エネルギー事業化検討の結果について

事務局から説明。この説明に関し、以下のような意見があった。

(意見)

【市民ファンドについて】

- ・募集の呼びかけ方法としては、セミナー、インターネット、メディア等いろいろある。
- ・2ヶ月で80億円を集めた事例、2週間で9千万円を集めた事例等がある。
- ・「たこつぼオーナー制度」のように、現物配当という方法もある。
- ・事業成立可能性がきちんと説明できれば、出資者は必ず現れるはずである。

【風力発電について】

- ・コストはもう少し安くできる。秋田の事例では、付帯設備等込みで25万円/kW未満、うち風車本体が14万円/kWだった。今回の場所では、税引き前のIRRで13～14%を見込めると思う。
- ・洋上風力は、水深20～30mの場所であれば、コストは陸上とそんなに違わない。
- ・一般的には、風車1基あたり70m四方のスペースを確保する。
- ・地域の資源で新しいエネルギーを創出する、という観点から、(雪氷倉庫だけでなく)何らかの発電事業をぜひ実施したい。

【雪氷倉庫について】

- ・じゃがいもは投機的作物であり、価格の変動が大きい。変動の要因は、気象の状態や九州地方のじゃがいもの作況等がある。
- ・価格が低いときには売らずに雪氷倉庫で貯蔵しておき、値上がりを待って出荷するという方法もある。
- ・スイートコーンやアスパラガスも雪氷貯蔵に適している。
- ・「この人が生産したものでないと食べたくない」と消費者が思ってくれるようなブランド化が必要である。
- ・じゃがいもの裏作として、または生産性の悪い農地を活用して、燃料用(ナタネ油等)の作物ができるとよい。
- ・倉庫で貯蔵する品目を増やすことで価格変動リスクを減らすこともできる。

【その他】

- ・事業は、ニセコ町内に限定しなくてもよいのではないか。

(2) 事業の具体化に向けて

事務局から説明。この説明に関し、以下のような意見があった。

(意見)

- ・自然エネルギーを活用して農業を行った例は、ニセコ町内にはまだない。減農薬栽培と自然エネルギー活用のセットでこれから実施できると良い。
- ・施設栽培であれば、無農薬でできる可能性がある。
- ・出資を集めるとなると、きちんと採算を取り返済できるのか不安がある。

- ・ニセコ高校では、ヒートポンプを活用した冬の葉物栽培が始まったところである。日射量の不足が課題である。美唄市でも同様に日射の問題があり、日射が不足しても生産できるアスパラガスに力を入れている。
- ・温泉熱の活用の観点で、綺羅乃湯の廃湯を活用できないか？ → 少量のため活用は困難と思われる。
- ・雪を使って綺羅乃湯の冷房に活用するというアイデアはありうる。
- ・雪解け水は超軟水である。
- ・風車が昆布岳の景観に調和するかどうかは、フォトモンタージュで検討可能である。
- ・昆布岳近傍には、以前「桂台ハイランド」があった。地権者が多いため、事業を実施するなら国有林、道有林でないと困難ではないか。→今回の検討地点は道有林。
- ・再生可能エネルギーの事業化に先立ち、実証実験ができるフィールドが町内にあるとよい。
- ・駅前倉庫群（石蔵）については、自然エネルギー研究会は、雪蔵として使う提案をしている。まだ使い方は未定とのこと。窓が不要な「ワインハウス」として使う案、肉の貯蔵庫として使う案、飲食店と連携する案等もある。

(3) 今後のとりまとめについて

- ・今回の委員会の意見をふまえて、今後のとりまとめの指導は委員長に委任し、町で最終成果を作成する。
 - ・最終成果については、町から各委員に発送する。
- 以上